

新聞紙を用いた身体表現遊びの実践的研究

— 4歳児と5歳児を比較して —

A Practical Study of Physical Expressive Play Using Newspapers -Comparing 4-Years-Old Children with 5-Years-Old Children-

高 原 和 子・瀧 信 子*

Kazuko Takahara・Nobuko Taki

キーワード：新聞紙遊び，身体表現遊び，イメージ，指導実践，4歳児，5歳児，環境設定

研究の背景と目的

子どもの教育及び保育について「幼稚園教育要領」¹⁾「保育所保育指針」²⁾「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」³⁾（以下3法令）では，その基本が示されており，保育者には，それらが体験できるよう保育環境を構成し，工夫することが求められている。【表1】

また，環境を通して行うことをその基本とし，子ども主体の保育の重要性も強調されている。なかでも，

からだを使った遊びは，体力・運動能力を養うとともに，動作や運動技能を身につけていき，様々な遊びのなかで知性や社会性の発達も育んでいく。このようなことから，子どものからだを使った遊びは重要であり，そのための生活環境，特に自由に遊べる環境づくりは最も大切にすべきことと考えられる。

一方，2012年に文部科学省から出された「幼児期運動指針」⁴⁾および「幼児期運動指針ガイドブック」⁵⁾では，「幼児期における運動については，適切に構成された環境の下で，幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に，体を動かすことを通して，生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基礎を培うことが

表1 研究の背景

3法令 <ul style="list-style-type: none">● 幼稚園教育要領● 保育所保育指針● 幼保連携型認定こども園教育・保育要領	教育及び保育の基本として， <ul style="list-style-type: none">■ 豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かたり，できるようになる■ 気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする■ 心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする が掲げられ「資質・能力を一体的に育むよう努めるもの」とされ，保育者には，それらが体験できる保育環境を構成し，工夫することが求められている。
● 幼児期運動指針	「適切に構成された環境の下で，幼児が自発的に取り組む様々な遊びを中心に，体を動かすことを通して，生涯にわたって心身ともに健康的に生きるための基礎を培う」ために， <ul style="list-style-type: none">■ 多様な動きの経験ができる様々な遊びを取り入れる■ 楽しく体を動かす時間の確保■ 発達特性に応じた遊びの提供 が掲げられ，幼児が遊びを通して環境と関わりながら主体的に身体活動を実践することが重要とされている。

* 福岡子ども短期大学

必要である」と謳われ、幼児が遊びを通して、環境と関わりながら主体的に身体活動を実践することが重要とされている。【表1】

このように、3法令や幼児期運動指針が示す内容から、保育現場においては幼児自らが環境に関わり自発的に活動し、様々な経験を積んでいくことができるような配慮が必要とされ、保育者には「幼児自らすすんで楽しくからだを動かす機会が持てるような十分な環境設定とその工夫」が求められている。

これらのことを踏まえ我々は、幼児がからだを使ってイメージ豊かに主体的に遊べる保育環境を検討することを目的に、身近にある素材に着想を得て、素材を用いた実践から環境設定を検証してきた。【表2】

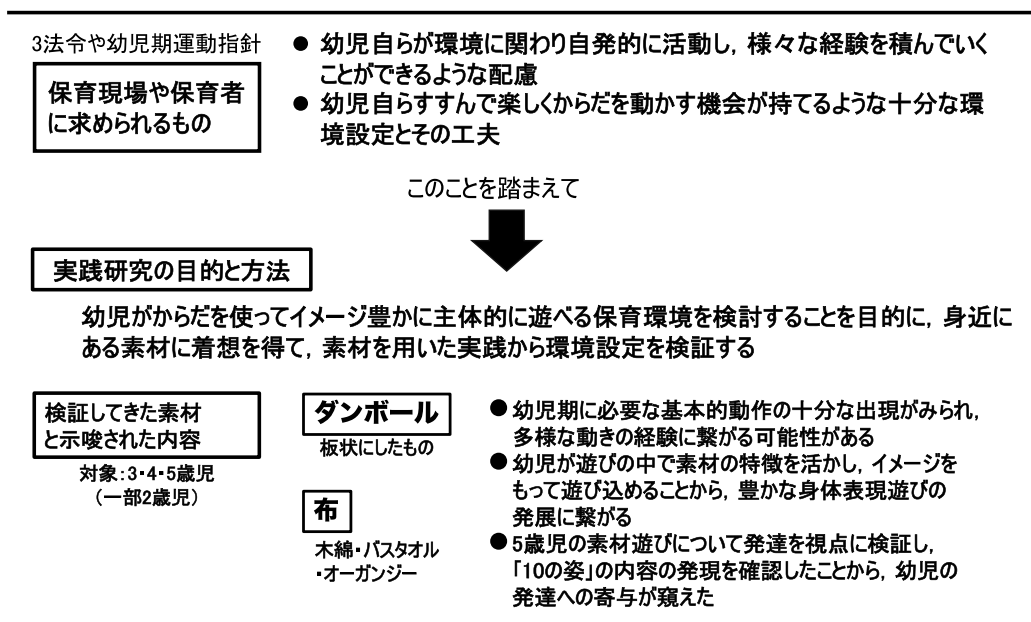
「ダンボール」、「布」を用いた遊びの基本的動作の検証においては、素材を利用した環境設定は幼児期に必要な基本的動作を十分出現させ、幼児の多様な動きの経験に繋がることを確認された^{6, 7, 8, 9, 10, 11)}。また、幼児が遊びの中で素材の特徴を活かした操作方法を創意工夫し、様々なイメージを持って遊び込み、活発な身体活動・身体表現遊びへ発展することも確認している^{12, 13, 14)}。さらに、素材遊びにおける幼児の姿を発達に視点をのいた検討では、保育の内容に示された「ねらい及び内容」に基づく保育活動を通して求められる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の内容が発現することが確認された。このことから、環境設定としての素材の活用は、発達の視点からみても有

用性が示された¹⁵⁾。【表2】

このように、素材を用いた環境設定は、幼児自らの主体的な活動を引き出す環境として有効であり、環境設定として身近な素材を用いることの有用性を確認してきている。これら先行研究を基にして、さらに素材遊びの検証を深めることを目的に、可塑性に富み、保育現場でも幅広い用途で用いられ、幼児にも扱いやすい「新聞紙」について検討を試みた。その結果、それまでの素材同様、石河ら¹⁶⁾、および体育科学センター¹⁷⁾が示す基本的動作も出現し、先行研究で得られた「動作の分類」⁶⁾においても同様の結果が得られた。よって、環境設定に新聞紙を用いることは、幼児の遊びの道具として有効であることが確認された^{18, 19)}。しかし、新聞紙の場合、ただ単に新聞紙を準備し、幼児の自主性に任せるだけでは、ダイナミックで十分な身体活動までには発展しないことも分かった。特に、イメージを持った身体表現遊びとして十分楽しむまでには到達していないことが窺えた^{18, 19, 20)}。

そこで、十分な身体活動とイメージを持った身体表現遊びへ発展するための手立てを検討するために研究者による指導実践を実施し、その前後における子どもの遊びを検証した。その結果、指導実践後ではイメージを持った動きが見られ、遊びの内容にも工夫や広がりが見られ、また、仲間とイメージを共有して動く場面も増えた^{18, 19, 20, 21, 22)}。これらのことから、身体表現遊びとして十分楽しむためには、保育者と一緒に新

表2 背景とこれまでの実践研究



新聞紙を操作しながらイメージを持った動きの体験を積み重ねていくことの重要性が示唆された^{18, 19, 20, 21, 22)}。

幼児が環境から刺激を受け、イメージを持って主体的に遊ぶことは、身体活動・身体表現遊びのねらいである。一連の実践研究から新聞紙を用いた環境設定において、身体活動・身体表現遊びのねらいを達成するためには、保育者の手立てや工夫が要ることが分かった。その上で、その内容を明らかにするためには、自由遊びの中で出現する幼児の遊びから年齢による特徴を見出し、その発達を踏まえた手立ての検討をする必要性が考えられた。

そこで本研究では、年齢による遊びの特徴について検討することを目的に、新聞紙を用いた環境設定における自由遊びの中で出現した遊びや動きから年齢による遊びの特徴を、保育者の手立ての影響を含めて検証した。

方 法

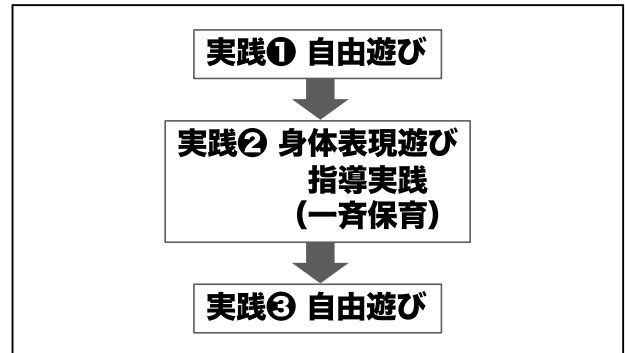
(1) 研究対象

対象は、保育園・幼稚園に通う5歳児28名、4歳児21名で、以下に示す方法で実施した。

(2) 実施方法【図1】

それぞれの園で、以下の①②③の実践を5歳児、4歳児を別にして実施した。

図1 実施方法














実践①

新聞紙を用いた自由遊びを実施した。遊びの時間は15分間設定した。

実践②

実践①の後、新聞紙を用いた身体表現遊び「忍者になって遊ぼう」を研究者の指導による一斉保育形式で実施した。内容は、指導者と一緒にダイナミックな動きに挑戦する遊びや、新聞紙の特徴を活かした操作方法を使って、幼児が主体的に動く遊びで、50分間実施した。【表3】

表3 身体表現遊び指導実践（実践②）「忍者になって遊ぼう」実施内容

ねらい		● 「忍者」をイメージしてダイナミックな動きに挑戦する。 ● 新聞紙の特徴を活かした操作方法を獲得しながら、仲間と一緒に動くことを楽しむ。	
段階	指導実践内容	操作と動きの種類	
導入	● 忍者について話を聞き、忍者の修行のイメージを膨らませる		
展開	● 忍者になって素早く動く修行をする	 	広げて床に置く ⇒ 歩く・走る
	● 新聞紙の上を跳び越える修行をする		畳んで床に置く ⇒ 跳び越える
	● 体につけたり持ち上げたりして走る修行をする	  	広げて体につける ⇒ 走る 手で持ち上げる ⇒ 走る
	● 敵から隠れる修行をする		体の上を覆う ⇒ 隠れる
	● 新聞紙を丸めて、望遠鏡をのぞく	 	長く丸めて持つ ⇒ 覗く
	● 剣の修行をする		長く丸めて持つ ⇒ 振る・振り回す まわす・跳ぶ・回る
	● 槍に見立てて投げる修行をする		長く丸めて捻る ⇒ 投げる
	● 水の中を潜ったり上を歩いたりする修行をする	 	長く丸めて口にあてる ⇒ 背中ですすみ泳ぐ 畳んで半分にちぎる ⇒ 上に乗って滑りながら進む
	● 新聞紙を尻尾や鼻などに見立て、動物に変身して遊ぶ		いろいろな尻尾を作りつける ⇒ 動物になる：這う・転がる・跳ぶ等
まとめ	● 忍者の修行で、いろいろな動物に挑戦できたことを振り返る		

実践③

実践②の後、実践①と同じ方法で新聞紙を用いた自由遊びを実施した。

(3)環境設定

使用する場所についてはホールを使用した。新聞紙(80.5cm × 54cm)は、幼児が自由に使えるように十分な枚数を準備し、幼児の目にとまるように配置した。

また、実践①③における15分間の自由遊びでは、遊びの内容に関しては幼児の自主性に任せた。なお、保育者および研究者(筆者)らは、指導や援助、声かけなどは行わず、安全管理と危険回避のみ行った。

(4)実施日

実践① 2021年9月5日(自由遊び)

実践② 2021年9月29日(身体表現遊び指導実践)

実践③ 2021年11月1日(自由遊び)

(5)観察記録

幼児の遊びの様子をビデオカメラで記録し、その映像を基に、遊び込んでいる、あるいは遊びが継続しているものを拾い上げ、その遊びの様子と変化を記録した。記録内容は、新聞紙の形状や使い方、遊びの内容、仲間との関わりについて記録した。また、イメージを持って遊び込んでいる時の幼児の言葉や、その様子から幼児のイメージしているものを推測し記録した。

(6)倫理的配慮

本研究の実施にあつては、事前にそれぞれの園の保育者と保護者に対し研究の趣旨を説明し、ビデオ撮影の承諾と同意を得て実施した。また、その際、収録映像は、研究のみに使用することも伝えた。

結 果

(1)自由遊びに出現した主な遊び・動き

自由遊びで出現した主な遊び・動きについて、身体表現遊び指導実践前(実践①)と実践後(実践③)に出現した主な遊びや動きを新聞紙の形状や使い方に分け【表4-1、表4-2、表4-3、表4-4】に示す。

実践①では「折る」「畳む」「棒状に丸めて剣にする」

「ジャンケン遊び」「被る」「持って走る」「畳んだりちぎったりして投げる」動作が頻繁に出現した。

実践③では、身体表現遊び指導実践で体験した遊び・動きをはじめ、ジャンケン遊び、遊ぶための道具作りとして「折る」「畳む」「棒状に丸める」などが出現した。

(2)自由遊び実践①の遊び・動きの様子

身体表現遊び指導実践前の自由遊び(実践①)について、時間経過ごとの4歳児と5歳児の様子を【図2】に示す。

4歳児で出現した遊び・動きとしては、まず新聞紙を操作して動くことから始まり、布団、絨毯、枕、一本橋、望遠鏡、剣、箒など簡単なものを作り、一つの遊びを繰り返す様子が見られた。遊びの終盤ではほぼ全員が棒状の剣を持ち走り回って終わった。

5歳児では、座位のまま何かの道具を作ることが多く、中には自由遊びの時間中ずっと座ったままの幼児も数名存在した。また、男児のほとんどは棒状に丸めて剣に見立てて「戦いごっこ」で遊ぶ姿が見られた。

(2)自由遊び実践③の遊び・動きの様子

身体表現遊び指導実践後の自由遊び(実践③)について、時間経過ごとの4歳児と5歳児の様子を【図3】に示す。

4歳児では、始まるなり身体表現遊び指導実践で体験したいくつかの遊びを中心に思い思いに遊び、動きは途切れなかった。実践①に比べると遊びのレパートリーが増え、またいろいろな遊びに挑戦していた。

5歳児においても4歳児同様に、身体表現遊び指導実践で体験した遊び・動きに挑戦していた。特に、「忍者」になりきって動く様子が見られた。まだ座位のまま製作ばかりの幼児もいるが、実践①に比較すると減少した。

考 察

(1)新聞紙を用いた環境設定

新聞紙を用いた環境設定における幼児の自由遊び時の遊び・動きでは、幼児期に求められる基本的動作が多数出現することがこれまでの先行研究において確認

表4-1 自由遊びに出現した主な遊び・動き <広げる>

○：出現

形状	出現した遊び・動き	実践①		実践③	
		身体表現遊び前		身体表現遊び後	
		4歳児	5歳児	4歳児	5歳児
広げる	敷き布団にして寝る	○	○	○	
	掛け布団にして寝転んだ体に乗せる	○	○	○	
	魔法の絨毯に見立てて上に立つ	○		○	
	川に見立てて跳び越える				○
	重ねて海に見立てて上を這う		○		○
	重ねて雪に見立てて上を走る				○
	重ねて雪に見立てて上を滑る				○
	洋服に見立てて身体に巻き付ける		○		○
	スカートのように腰から下に着けてクルクル回る				○
	フワッと高く投げて捕る	○		○	○
	サッカーのように蹴り上げる			○	
	トランポリンのように上に乗って跳ぶ			○	
	上に乗ってジャンケン遊びをする	○			
	頭に載せてバランスをとる, 歩く	○		○	
	座って頭の上に載せてバランスをとる	○			
	鳥の羽に見立てて走る, 回る, 羽ばたく			○	
	マントに見立てて頭に載せて歩く		○		
	マントにして背中に着けて走る		○	○	○
	ヒラヒラさせながら振る, 回す, 走る	○		○	
	頭上に持ち上げて走る				○
	体の前に付けて走る			○	○
	片手に持ってコマのように回る	○		○	
	ロボットアーム（巻きつける）			○	
	洋服の中に入れてお腹を膨らます	○			

表4-2 自由遊びに出現した主な遊び・動き <折り畳む>

○：出現

形状	出現した遊び・動き	実践①		実践③	
		身体表現遊び前		身体表現遊び後	
		4歳児	5歳児	4歳児	5歳児
折り畳む	枕にして寝る	○			
	ホッピングのように上に乗る跳ぶ, 進む	○		○	
	飛び石にして並べ, 跳びながら移動する			○	
	一本橋のように並べ, 歩いて渡る	○		○	
	丸めて口にくわえる			○	○
	扇子のようにして扇ぐ			○	○
	ソリのように敷いて滑って進む			○	
	畳んだ上に手を乗せて, 雑巾がけのように滑らせて進む			○	○
	畳んだ上に足を乗せて, 水の上を滑らせて進む			○	○
	鳥の羽のように折って走り回る			○	
	ヘアバンドや冠にして頭に載せる	○			
	飛行機を折り, 両手で持つ		○		
	リボンを作り, 紙に載せながら歩く		○		○
	財布を降り, 持ち歩く		○		○
	兜を折り, 被る		○		
	盾のように持って, 剣を防ぐ				○
	タオルのように首にかける		○	○	

表4-3 自由遊びに出現した主な遊び・動き <筒状や球状に丸める>

○：出現

形状	出現した遊び・動き	実践①		実践③	
		身体表現遊び前		身体表現遊び後	
		4歳児	5歳児	4歳児	5歳児
筒状や球状に丸める	筒状にして手を入れロボットアームにして歩く	○			
	筒状にして望遠鏡に見立てて覗く	○			
	筒状にしたものを使って会話を楽しむ	○			
	筒状にしたボタンにして回す			○	
	筒状に丸めて口にあて、背中で滑って進む（水遁の術）				○
	剣のように棒状にして振り回す	○	○	○	○
	剣のように棒状にして持ち、走り回る	○	○	○	○
	剣のように棒状にして持ち、追いかけたり逃げたりする		○		○
	剣のように棒状にして持ち、クルクル回る				○
	剣のように棒状にして体前で構え、修行の相手をする				○
	棒状丸めた剣を平らに潰して、振り回す		○		
	二刀流剣士で振り回す			○	
	棒状丸めた剣と球状に丸めた玉を持って、走る		○		○
	棒状丸め、尻尾に見立てて付ける				○
	棒状丸めて捻る		○		○
	棒状丸めて引っ張り合う		○		○
	筒をつぶして一本橋に見立て歩いて渡る			○	
	吹き矢に見立てて吹く	○			
	球状に丸めた玉を人に投げつける				○
	魔法の幕に見立てて走る	○			
	ボールのように丸めて、上に投げる		○		○
	ボールのように丸めて、投げて捕る			○	
	ボールのように丸めて、遠くに投げる		○		
	野球のバットとボールにして打つ	○	○	○	

表4-4 自由遊びに出現した主な遊び・動き <ちぎる>

○：出現

形状	出現した遊び・動き	実践①		実践③	
		身体表現遊び前		身体表現遊び後	
		4歳児	5歳児	4歳児	5歳児
ちぎる	飛び石にして上を歩いてわたる、跳び渡る	○		○	
	雪のように投げてばらまく	○		○	
	細長くちぎり、スカートのように腰からぶら下げて、歩く				○
	細長くちぎり、スカートのように腰からぶら下げて、滑る				○
	穴をあけ、被って、走る		○		○
	一つにまとめてボールにして投げる	○			

されている^{18, 19)}。本研究においても4歳児および5歳児ともに改めて確認することができた。よって、新聞紙を用いた環境設定は、幼児の多様な動作を引き出すことが示唆され、新聞紙の環境設定としての有用性が認められた。

(2)実践①で出現した遊び・動きからみた特徴

新聞紙を用いた遊び・動きの特徴としては「広げる・畳む・折る・丸める・ちぎる」動作が頻繁に出現した。それは、幼児がまず遊ぶための道具を作ることによるためであり、これまでの素材遊びにはみられなかった特徴が示された。このことは、新聞紙が可塑性に富み、簡単に折ったり丸めたり、ちぎることもでき、

図2 実践① 身体表現遊び指導実践前の自由遊びの様子



図3 実践③ 身体表現遊び指導実践後の自由遊びの様子



軽くて幼児にも扱いやすい素材であることの特徴と考えられた。特に5歳児の実践①においては座り込んで道具作りに取り組む姿が頻繁に見られ【写真1】、中には作って満足する様子も見られた。4歳児の実践①においても道具を作る姿は見られたが、簡単なものを作ってすぐ遊びに転じていた。

写真1 道具作りに取り組む姿



そのことから、全体の動きを確認すると、比較的4歳児の方がよく動いている様子があり、5歳児は道具作りに取り組むことが多い傾向が見られた。5歳児は手指が発達し、4歳児に比べ細かな作業も上手くできるようになる。そのため、5歳児においては道具作りそのものが遊びになったものと考えられた。この点が4歳児と5歳児の遊びの違いとして現れたものと推察された。

保育現場では日常的に新聞紙の活用率は高く、中でも製作活動に用いることは多い。その体験から「新聞紙=つくる(折る)」という認識が高く、それが道具作りという行動に見られたものと考えられた。

また、実践①で出現した遊び・動きの特徴としては、幼児自身の日常生活や日頃の遊びで体験したことからイメージされるものが多く、折って遊ぶことを中心に、丸めてボールにして遊ぶ他、海、マント、剣などに見立てた遊びが見られた。実践①において出現した遊び・動きでは、4歳児と5歳児とで出現した遊び・動きに多少の違いはあるものの、両者ともに生活体験やそれまでの体験の域を出ることはなかった。

日常的に新聞紙を用いてからだを使って遊ぶ体験も少ない。このことから、遊び・動きとしては幼児の生活体験に寄るところが大きく、遊びに広がりが見られなかったのではないかと考えられた。

(3)実践③で出現した遊び・動きからみた特徴

実践③においては、4歳児、5歳児ともに遊び始めから身体表現遊び指導実践で体験した遊び・動きが多数出現し、その遊び・動きを楽しむ姿があった。特に、5歳児においては、実践①に比べ格段に動く遊びが増えた。これは、新聞紙を用いてからだを使って遊ぶ楽しさを身体表現遊び指導実践で体験したことによるものと考えられた。また、4歳児においては、体験を重ねることで新聞紙の操作もスムーズに行えるようになり、そのことが遊びや動作を増やすことにも繋がったと考えられた。

さらに、実践③では、身体表現遊び指導実践で体験した遊び・動きを楽しむだけでなく、自分なりのイメージをもった遊び・動きが見られた。それは指導実践が身体表現を主とした内容の実践であったことによるものであり、そこで体験したイメージをもって遊んだり、動いたりした体験が幼児の遊びの内容に広がりや深まりをもたらした結果である。よって、身体表現遊び指導実践が幼児の感性に寄与したものと推察された。

まとめと今後の課題

本研究は、幼児がからだを使ってイメージ豊かに主体的に遊べる保育環境を検討することを目的に行ってきた、身近にある素材を用いた実践研究の一環として、新聞紙を用いた環境設定における自由遊びの中で出現した遊びや動きについて年齢による遊びの特徴から検証した。その結果、以下の内容が確認された。

- ① 新聞紙は幼児にも扱いやすく、自発的に楽しく遊べることから、4歳児および5歳児における自由遊びの環境設定として有効である。
- ② 新聞紙は幼児の自発的な遊びを誘発するが、遊びの内容は、幼児のそれまでの生活体験の域を出ることはなく、単に環境設定だけでは、活発な身体活動やイメージを持った身体表現遊びには直接結びつきにくい。特に、5歳児においては、素材の持つそれまでのイメージやその発達の特徴から「製作」に特化しやすいことが確認された。
- ③ 保育者の工夫や手立てにより、幼児の遊び・動きに変化をもたらすことができる。特に、身体表現遊びを意図的に取り入れることで、イメージを

持った遊びや動きがもたらされることがわかり、4歳児においては遊びのレパートリーが増え、5歳児においてはイメージをもって動くことで遊びの内容に広がりや深まりが見られた。

今回、新聞紙を用いた遊び・動きについて4歳児と5歳児を比較することで、その年齢特有の特徴を知ることができた。また、両者ともに身体表現遊び指導実践が幼児の遊び・動きに影響を与えたことから、幼児が創造性豊かに遊び続けるためには、保育者の適切な援助が必要であることを改めて確認することができた。

今後は、例数を増やすとともに、さらに新聞紙遊びの特徴を明らかにしていきたい。また、保育者の工夫や手立てについても指導実践の方法を含め検討していきたい。

参考・引用文献

- 1) 文部省：幼稚園教育要領（平成元年告示）. 1989.
- 2) 厚生労働省：保育所保育指針（平成29年告示）. 2017.
- 3) 内閣府，文部科学省，厚生労働省：幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）. 2017.
- 4) 幼児期運動指針策定委員会：幼児期運動指針. 文部科学省. 2012.
- 5) 幼児期運動指針策定委員会：幼児期運動指針ガイドブック 毎日，楽しく体を動かすために. 文部科学省. 2012.
- 6) 瀧信子，矢野咲子，怡土ゆき絵，青木理子，小川鮎子，小松恵理子，高原和子：5歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性. 福岡こども短期大学研究紀要，28，19-27，2017.
- 7) 高原和子，瀧信子，矢野咲子，小川鮎子，小松恵理子：幼児の自発的なダンボール遊びにおける動きの内容. 福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学，6，33-45，2018.
- 8) 瀧信子，矢野咲子，高原和子，宮嶋郁恵：3歳児の多様な運動経験に繋がる自発的なダンボール遊びの有用性. 福岡こども短期大学研究紀要，31，1-10，2020.
- 9) 瀧信子，高原和子，宮嶋郁恵，矢野咲子：5歳児にみられた布遊び. 九州体育・スポーツ学会第68回大会，2019.（九州体育・スポーツ学研究，34 補遺版，22，2019）
- 10) 高原和子，瀧信子，矢野咲子，宮嶋郁恵，本山司：幼児の素材遊びの検討－ダンボール遊びと布遊びを比較して－. 福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学，8，1-10，2020.
- 11) 高原和子，瀧信子，宮嶋郁恵，矢野咲子：4歳児にみられたダンボール遊びの実態. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編，21，29-36，2020.
- 12) 高原和子，瀧信子，矢野咲子，小川鮎子，小松恵理子：幼児の豊かな身体表現の出現－ダンボールの有用性－. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編，19，67-73，2018.
- 13) 高原和子，瀧信子，宮嶋郁恵，矢野咲子：素材を利用した身体表現遊びの検討－「布」の有用性－. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編，23，49-58，2022.
- 14) 高原和子，瀧信子，矢野咲子：幼児における身近な素材（ダンボール・布・新聞紙）を用いた遊びの特徴. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編，24，41-50，2023.
- 15) 高原和子，瀧信子，矢野咲子：素材を用いた環境設定の有用性－布遊びからみた5歳児の発達－. 福岡女学院大学大学院紀要 発達教育学，11，23-37，2023.
- 16) 石河利寛，栗本関夫，勝部篤美，近藤充夫，前川峯雄，松田岩男，森下はるみ，清水達雄，末利博，高田典衛：幼稚園における体育カリキュラムの作成に関する研究 I. カリキュラムの基本的な考え方と予備的調査の結果について. 体育科学，8：150-155，1980.
- 17) 財団法人体育科学センター：幼児の体育カリキュラム. 株式会社学習研究社（学研），東京，20-23，1986.
- 18) 瀧信子，高原和子，矢野咲子：4歳児における新聞紙を用いた運動遊びの手立て. 九州体育・スポーツ学会第71回大会，2022.（九州体育・スポーツ学研究，37 補遺版，20，2023）

- 19) 高原和子, 瀧信子, 矢野咲子: 5歳児の新聞紙を用いた身体表現遊びの実践的研究 –その2: 動作分類から捉えて–. 福岡女学院大学紀要 人間関係学部編, 25, 35-42, 2024.
- 20) 瀧信子, 高原和子, 矢野咲子: 5歳児における新聞紙を用いた身体表現遊びの手立て. 日本保育学会第75回大会発表論文集, 2022.
- 21) 瀧信子, 矢野咲子, 高原和子: 5歳児の新聞紙を用いた身体表現遊びの実践的研究. 福岡こども短期大学研究紀要, 34, 1-9, 2023.
- 22) 瀧信子, 高原和子, 矢野咲子: 4歳児における新聞紙を用いた身体表現遊びの手立て. 日本保育学会第76回大会発表論文集, 2023.

付 記

本論文は,「新聞紙を用いたからだを使った遊び – 歳児と5歳児を比較して–」として第77回日本保育学会でポスター発表したものを加筆・修正したものである。